

東北環境パートナーシップオフィス

運営第4期（平成28～30年度）3年目

平成30年度 事業報告書



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

目次

1. 平成 30 年度事業計画書

(1) はじめに	P5
(2) EPO 東北これまでの成果	P6
(3) EPO 東北これまでの課題	P7
(4) 第 4 期（平成 28-30 年度）運営方針	P7
(5) 中期計画の変更	P8
(6) EPO 東北 平成 30 年度 運営計画（第 4 期 3 年目）	P9
(7) EPO 東北 平成 30 年度 事業計画一覧	P10
(8) 東北地方 ESD 活動支援センター 平成 30 年度 運営計画・事業計画一覧	P12

2. 平成 30 年度事業報告書

(1) 重点事業と総括	P14
(2) 出張・外出のべ日数	P15
(3) 事業実施一覧	P16
(4) 事業実施報告	P18
1) 基本業務	P18
① Web サイト等を活用した情報発信、PR	
② 相談対応・対話の場づくり	
③ 全国事業に関わる業務	
④ 施設の維持・管理	
2) SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための 民間活動支援業務	P20
3) 環境教育・学習における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業	P22
4) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	P24
5) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化	P26
6) 環境政策に係る企画提案等の支援	P29
7) 評議委員会・パートナーシップ団体会議の開催	P32
8) 地方環境事務所との協働による事業実施	P32
9) その他	P33
① スタッフ勉強会	
② EPO 間連携事業の実施	
③ 他団体との事業連携等	
ア) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携	
イ) Green Gift 地球元気プログラム	
ウ) 「社会人を対象にした地域の課題発見等に関する研修事業」に関する ニーズ調査業務	

東北環境パートナーシップオフィス

運営第4期（平成28～30年度）3年目

平成30年度事業計画書

(1) はじめに

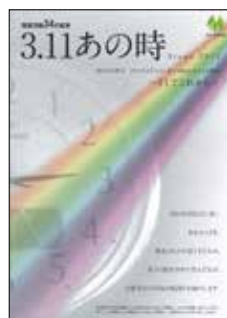
平成 30 年度は EPO 東北の開設から 13 年目となり、第 4 期・3 年目の運営期となる。平成 28 年度 7 月に東北地方 ESD 活動支援センターが開設し、運営 2 年目となる本年度は事業の具体的な推進およびネットワーク構築と拡充が求められる。これまで東北地方で ESD 推進に取り組んできた関係者や既存の団体との連携に重きを置き、センターとしての機能強化に努めたい。EPO 東北事業においては、過年度からの継続事業に加えて新たな事業の実施を計画している。ニーズに合致した事業を展開できるよう、丁寧なヒアリングを基に企画調整に取り組みたい。

運営期と主な出来事

期	年度	運営団体	主な出来事
第 1 期	平成 18 年度	NPO 法人 水環境ネット東北	7 月 22 日開設
	平成 19 年度		
	平成 20 年度		
	平成 21 年度		
第 2 期	平成 22 年度		・生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) (愛知)
	平成 23 年度		・平成 23 年 3 月 11 日 東日本大震災
	平成 24 年度		・3.11 あの時ヒアリング (H25 年度まで 3 年間継続)
第 3 期	平成 25 年度	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ ネットワーク (MELON)	・再生可能エネルギー交流会開催
	平成 26 年度		・環境省「環境 NPO 等ビジネスモデル策定事業」を東北中心に実施 (H25 年度まで 2 年間実施)
	平成 27 年度		・環境省「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」 (H29 年度まで 5 年間実施)
第 4 期	平成 28 年度		・EPO 間連携事業の展開
	平成 29 年度		・第 1 回みちのく薪びと祭り開催 (以後、毎年継続実施)
	平成 30 年度		・国連 ESD の 10 年最終年会合 (愛知)



H22/10/11～29 生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10)



冊子「3.11 あの時」シリーズ



H26/11/10～12 国連 ESD の 10 年最終年会合



H29/2/9 東北 ESD フォーラムフォーラム 2018

(2) EPO 東北 これまでの成果

独自の事業スタイルの確立

事業のスタートは必ず
訪問ヒアリングから。

協働手法による
アプローチ

現場ヒアリング

- ・課題
- ・ニーズ

掘り
起こし



企画

- ・キーパーソン



関係者ヒアリング

巻き
込み



調整

- ・企画修正
- ・事前打ち合わせ



交流会

対談

WS

事後ヒアリングをして
次年度に向けた整理。

1 見える化

- ・「3.11 あの時」冊子化
- ・「3.11 あの時 事例集」冊子化
- ・東北ソーシャルビジネス事例集
- ・EPO 東北 6 年間 (H22 ~ 27 年度) 運営業務総括書

2 東日本大震災 関連事業

- ・再生可能エネルギー交流会
- ・地域の伝承と ESD 交流会
- ・中間支援組織交流会
- ・ESD 学びあいフォーラム

3 EPO ネットワークとの連携

- ・再生可能エネルギー交流会
 - H25 年度 in 広島 (EPO ちゅうごく、EPO 九州)
 - H26 年度 in 福岡 (EPO 九州)
 - H27 年度 in 四国 (四国 EPO)
- ・中間支援組織交流会
 - H25 年度 in 宮城 (EPO ちゅうごく)
 - H26 年度 in 広島 (EPO ちゅうごく、GEOC)
 - H27 年度 in 関東 (関東 EPO、GEOC)
 - H28 年度 in 四国 (四国 EPO、EPO ちゅうごく、EPO 九州、関東 EPO)
- ・ESD 学びあいフォーラム
 - H26 年度 in 沖縄 (EPO 九州)
 - H27 年度 in 沖縄 (EPO 九州) in 愛知 (EPO 中部)
 - H28 年度 in 沖縄 (EPO 九州) in 中部 (EPO 中部)
 - H29 年度 in 中部 (EPO 中部)

- ・県境を越えた対話の場
- ・ネットワークの創出

交流会

分科会

地域開催型へ

- ・ネットワークの機運向上
- ・実行委員会形式による関係者の巻き込み

+ α の成果

- ・地域内の関係構築に貢献
- ・地域の他の活動が影響を受け活発になった



H26/8/7 中間支援組織交流会 in 広島



H28/10/17 ~ 19 ESD 学びあいフォーラム in 愛知 (3 校で実施)

(3) EPO 東北 これまでの課題



フォーラム、シンポジウムの開催



NPO でもできるコト。
EPO 東北には違うことを
してほしい。

協働の推進手法として
催事開催が適当か？



交流会形式等による場づくり



つなぐ 県境を越えて
多様なセクターと



情報提供 他の取組事例
課題と対策



発信 東北ブロックへ
東北の外へ

外部評価委員会
における指摘



東北の特性に応じた協働促進



政策コミュニティ支援における
実効のある活動



モデル・成果の「見える化」



活動が継続する仕組み作り



EPO 東北のあり方整理



継続事業の変革



(4) 第 4 期（平成 28-30 年度）運営方針

※ H28 年 4 月立案



これまでのネットワーク、ノウハウを活かして

- ① 継続プロジェクトの発展
- ② 新しいプロジェクトの推進

◇ 丁寧な現場ヒアリングで東北特性に応じた事業展開を

◇ 事業ごとの記録＆分析をして成果の「見える化」

◇ 地域のニーズをよく聞き、ニーズに応える場づくりによって、活動の下支え
をする

中期計画

【成果目標】
キーパーソンの
掘り起こし

【行動目標】
対話を主軸とした
事業展開

4 つのテーマ

- 1 持続可能な社会に向けた取組
- 2 中間支援機能の強化
- 3 環境政策に係る企画・提案の作成支援
- 4 情報収集とウェブサイト等を活用した情報発信、PR

(5) 中期計画の変更 ※H29年4月

平成28年度後期より、「平成28年度地方ESD活動支援センター設置に向けた体制整備等検討業務」が加わり、平成29年度以降はEPOが地方ESD活動支援センターの運営を担うこととなった。事業の拡大が見込まれるため、事業全体の見直しを行い、中期計画を大きく変更することとした。全体の事業量の見直しについては平成28年度の期中から東北地方環境事務所からも指摘を受け受けており、協議の上で取り組むべきテーマの絞り込みを行った。同時に、地方ESD活動支援センターの運営業務に伴い、スタッフへの負担が懸念されることから、円滑な事業運営に取り組めるよう運営体制の見直しを図った。

1.EPO 東北事業の整理

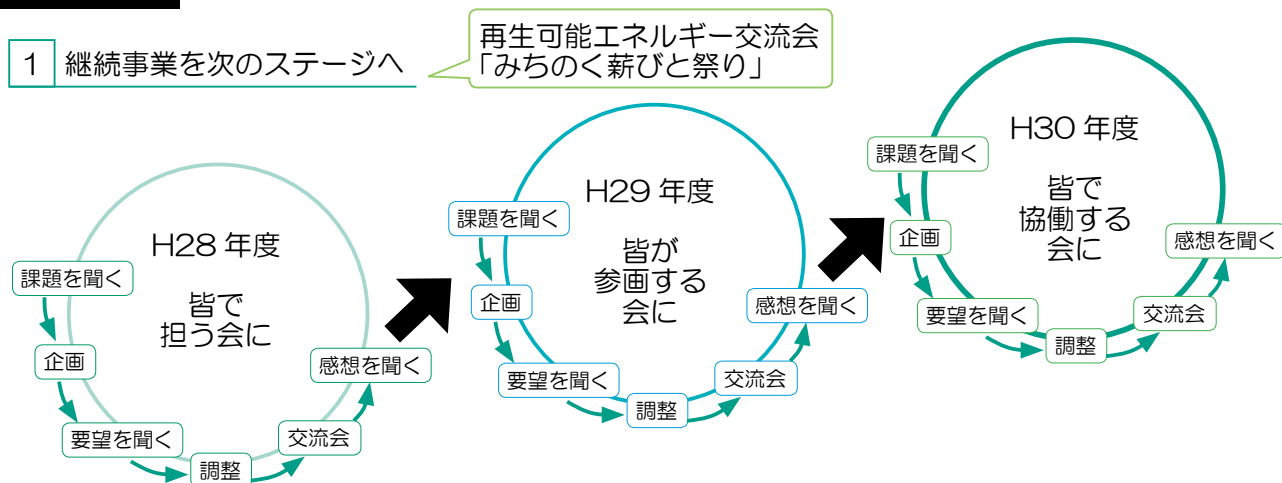
- ・事業の見直しと、取り組むべきテーマの絞り込み
- ・運営体制の見直し

2. 地方ESD活動支援センターの設立・運営

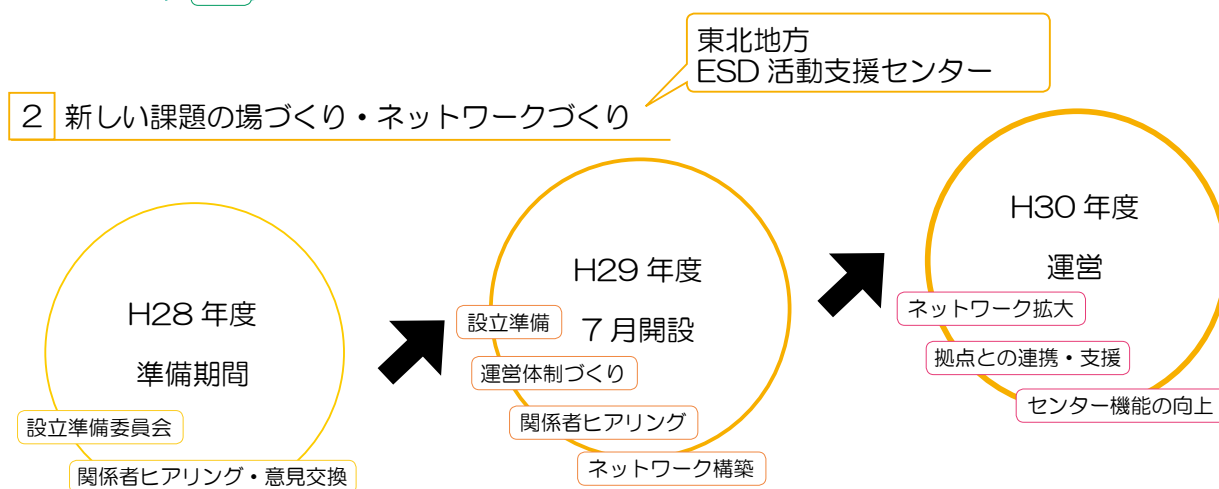
- ・運営体制の整備
- ・既存のネットワークとの連携体制の構築
- ・ESD活動のネットワーク形成

重点事業

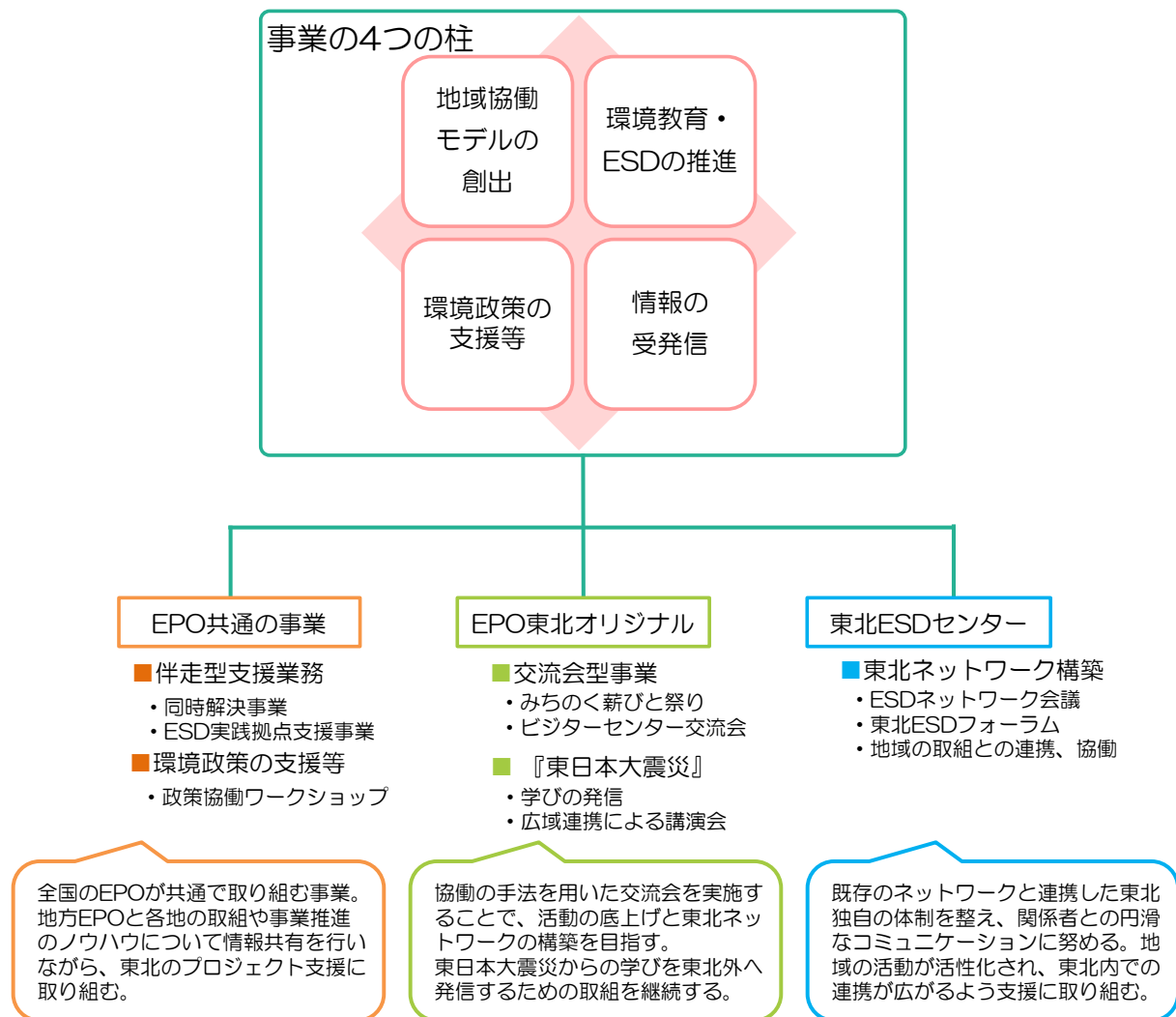
1 継続事業を次のステージへ



2 新しい課題の場づくり・ネットワークづくり

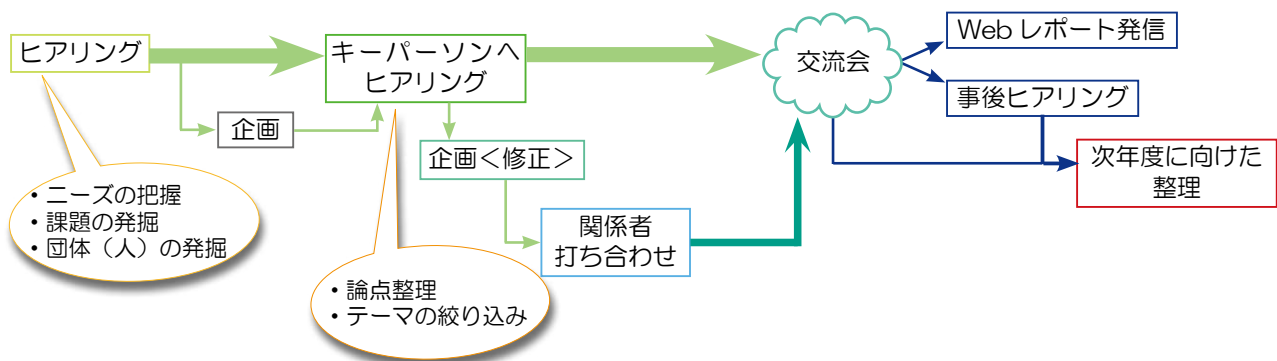


(6) EPO 東北 平成30年度運営計画（第4期3年目）



【事業の企画調整の流れ】

地域の課題やニーズに応じた事業を推進するため、訪問ヒアリングによる情報収集に重きを置き、各事業の企画に取り組むこととする。また、全体の事業進行については随時関係者内で共有し、適宜スタッフ間の連携や予定の調整を行いながら円滑な業務運営に努める。



(7) EPO 東北 平成 30 年度事業計画一覧

1. 基本業務

① Web サイト等を活用した情報発信、PR ・ Web サイト ・ メールマガジン（月 2 回発行） ・ 機関紙 EPO 東北通信（年 2 回発行）	井上◎ 鈴木 小山田 小泉 石木田 山口
② 相談対応・対話の場づくり ・ 各種情報紹介 ・ 相談対応 ・ 東北管内における情報収集・支援	
③ 全国事業に関わる業務 ・ 全国 EPO 連絡会（2 回） ・ 連絡調整会議（1 回）	
④ 施設の維持・管理 ・ 会議スペースの貸し出し ・ 情報誌・関連図書の貸出等	

2. SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務

① 採択団体および東北地方環境事務所との連絡調整	井上 鈴木◎ 小泉
② 審査会の開催およびヒアリング ・ 応募書類確認、ヒアリングのサポート ・ 審査委員の委嘱 ・ 審査会の開催（5 月下旬）	
③ 連絡会の開催およびキックオフ会合への出席 ・ 採択団体と審査委員からなる連絡会（2 回） ・ 環境省主催キックオフ会合（東京、1 回）	
④ 伴走支援 ・ 採択団体との打合せ（地域連絡会、3 回）	
⑤ 月次報告の作成	
⑥ 全国事務局が開催する会議への出席 ・ 連絡調整会議（東京、1 回） ・ 成果取りまとめ会議（東京、1 回）	
⑦ 全国事務局による成果物作成等への協力	

3. 環境教育・学習における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業（H28 年度～継続）

① 採択団体および東北地方環境事務所との連絡調整	井上 小山田◎ 石木田
② インタビュー調査 H28、29 年度連携拠点へその後の変化を調査（各 1 回） 【青森県】 NPO 法人青森環境 パートナーシップセンター 【秋田県】 一般社団法人あきた地球環境会議	
③ プラットフォーム会議（2 回）	
④ 伴走支援	
⑤ 業務実施進捗報告	
⑥ 評価会議（1 回）	
⑦ 成果報告会への出席（東京、1 回）	
⑧ 全国事務局による成果物作成等への補助業務 ・ 作業部会（東京、3 回）	
⑨ アドバイザリー・ボード会議の構成員の推薦	

4. 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

① ヒアリング調査 生物多様性をテーマとした普及啓発、情報発信等について、ビジターセンターや自治体、環境教育施設を対象にヒアリングを行う。	井上◎ 鈴木 小山田 小泉 石木田 山口
② 交流会（名称未定）（2 回程度） 東北管内の横の連携をつなぎ、普及啓発や情報発信等の強化を図るため、対象施設を参集範囲とした交流の機会を設ける。	

年間スケジュール

事業名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
2. SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務		書類確認 ・ ヒアリング	審査会	事業形成会議① 地域連絡会①	キックオフ ・ 月次報告／毎月提出、伴走支援
3. 環境教育・学習における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業		伴走支援	編集ワーキング①	インタビュー 3 件	編集ワーキング②
4. 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	ヒアリング	企画調整	企画準備	交流会	
5. 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化	ヒアリング		企画調整		企画準備
6. 環境政策に係る企画提案等の支援	ヒアリング		企画調整	三者会議①	
会議等		評議委員会① 事業運営会議①	パートナーシップ団体会議 全国 EPO 連絡会①		事業運営会議②
	《随時》 ・ 相談対応 ・ 事業連携協力 ・ 情報受発信				

5. 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

再生可能エネルギー交流会【継続】 「第5回みちのく薪びと祭り in 秋田」 ・地域の団体を中心に協働で交流会を開催することで、主催団体の活動の底上げ、開催地の活動の活性化を目指す。 ・中国地方での活動の波及を目指し、EPO ちゅうごくと共催してブロック外の連携を図る。	井上 鈴木 小山田◎ 小泉 石木田 山口
---	-------------------------------------

6. 環境政策に係る企画提案等の支援

①三者会議（2回）【継続】 宮城県・仙台市・EPO 東北による会議を開催し、環境情報発信・環境教育推進拠点として機能強化を目指し意見交換の場を設ける。	井上 鈴木◎ 小泉
②政策協働ワークショップ（1回） 協働取組や環境政策への市民参加の理解を深めるため、自治体、NPO 等を対象とした学びの機会を設ける。	

7. 評議委員会・パートナーシップ団体会議の開催

①評議委員会（2回） ②パートナーシップ団体会議（1回）	井上 鈴木 小山田 小泉◎ 石木田 山口
---------------------------------	-------------------------------------

8. 地方環境事務所との協働による事業実施

事業運営会議（5回） 東北地方環境事務所と協働による円滑な運営のために、情報共有及び意見交換を図るための定期的な会議を行う。	井上 鈴木 小山田 小泉◎ 石木田 山口
---	-------------------------------------

9. その他

①スタッフ勉強会 事務局機能向上のためにスタッフ間の勉強や研修の機会を設ける。	井上◎ 鈴木 小山田 小泉 石木田 山口
②EPO 間連携事業の実施	
③他団体との事業連携等 ・独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との協定に基づく連携 ・GreenGift 地球元気プログラム 東北ブロックにおける地域の NPO との連携を支援する。 主催／日本 NPO センター 協賛／東京海上日動火災保険（株） 実施地域／青森県、岩手県、秋田県	

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域連絡会②		連絡会①	事業形成会議②	連絡会②	地域連絡会③	
					成果まとめ会議	
					評価会議	
プラットフォーム会議①	プラットフォーム会議②	編集ワーキング③			成果共有会	
企画調整	企画準備	交流会				
企画準備	第5回 みちのく薪びと祭り	事後フォローヒアリング	成果とりまとめ			
		企画調整	三者会議②			
	事業運営会議③	事業運営会議④		評議委員会② 事業運営会議⑤ 全国 EPO 連絡会②		

東北環境パートナーシップオフィス

運営第4期（平成28～30年度）3年目

平成30年度事業報告書

(1) 重点事業と総括

■ H30 年度の特徴

EPO 東北が平成 23 年度から継続して取り組んできた再生可能エネルギー交流事業は、平成 26 年度から地域の団体との協働による開催形態へと発展し、本年度で 5 回目の開催を迎えた。過去の開催地域において、交流会をきっかけに団体の活動や地域の活性化につながった等、事業の成果を確認することができた。

これまでの開催を通じて蓄積してきたノウハウを活用し、新たな交流会事業にも着手した。これまで連携の機会がなかったステークホルダーとのつながりを得たことで、EPO 東北の今後の事業において、新しい事業展開の足掛かりができた。また、ケーススタディから協働を学ぶワークショップを実施するなど、新しいアプローチの企画にも取り組んだ。

東北地方 ESD 活動支援センター事業においては、岩手県盛岡市で東北 ESD フォーラム in 岩手を開催した。定員 100 名を上回る 151 名の参加があり、企業からも多くの参加があった。これまで企業との連携がウィークポイントとなっていたことから、EPO 東北事業においても新たな連携・協働の可能性を得ることができたと考えられる。

一方で、EPO 東北と東北地方 ESD 活動支援センターの 2 つの看板を持ち、運営においては試行錯誤を重ねた年となった。1 年間の取組みの結果、2 つの事業の連動など、今後に向けた構想のヒントを得ることができた。

■ H30 年度目標に対する達成度

重点事業 1. 継続事業を次のステージへ

再生可能エネルギー交流会

＜運営第 4 期 3 年間の目標＞

EPO 東北が主体的に場づくりを行う会から、開催地域の受け入れ団体が主体となること、第 1 回から継続参加するキーパーソンがより主体性を持って参画することで、協働による企画運営が行われる会となることを目標とした。

＜成果＞

これまで開催地の受け入れ団体と EPO 東北が企画運営を担ってきたが、昨年度からキーパーソン会議の開催を行ったことで主体性が増し、関係者の役割分担の基で交流会を開催することができた。「参加する会」から「協働する会」へとステップアップさせることができた。

重点事業 2. 新しい課題の場づくり・ネットワークづくり

東北地方 ESD 活動支援センター

＜運営第 4 期 3 年間の目標＞

準備期間を経てステークホルダーとの関係構築に努め、運営体制づくり、ネットワークの拡大、センター機能の向上を目標とした。

＜成果＞

既存のネットワークや関係団体との連携・協働が課題となっていたが、東北地方 ESD 活動支援センター開設から 2 年目に入り、事業の方向性や運営について理解が深まった。外部との連携については確認不足など反省点も多いが、地域 ESD 活動推進拠点との事業連携・協働にも着手し、次につながる事例を創出することができた。

■ 運営第 5 期に向けた課題

① 東日本大震災の教訓の発信

平成 32 (2020) 年に東日本大震災の発災から 10 年の節目を迎える。日本各地で自然災害が多発し、防災への意識が高まり、東日本大震災の教訓が活かされる事例も多くみられる。一方で、中学生以下の児童は当時幼く、大震災を経験していない児童に対する ESD 防災教育のあり方が今後課題となる。10 年間の復旧・復興の歩みを振り返ること、教訓を改めて見つめ直すことと合わせて、EPO 東北が担うべき役割について考える必要がある。

② 中間支援機能の強化

東北地方 ESD 活動支援センター事業が加わったことで、これまで以上に分野を超えた連携をつなぐ橋渡しの役割が期待される。EPO 東北が持つ環境系のネットワー

クと、東北地方 ESD 活動支援センター事業により得た教育系のネットワークとの連携・協働の支援が求められる。また、行政や企業などウィークポイントとなっている分野のネットワーク構築が大きな課題となる。

③ 業務の効率化

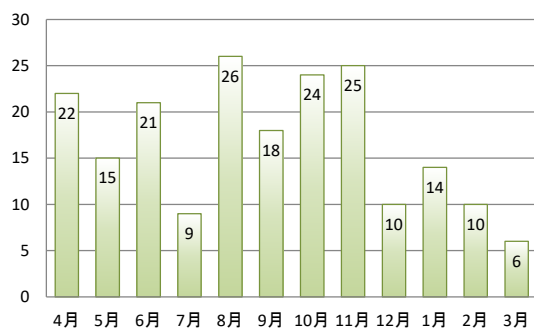
全体的な業務量が増加し、過去の運営期と比較すると、EPO 東北がネットワーク構築のために大事にしてきた Face to Face による情報収集の機会が減っている。事業の整理や業務の効率化に取り組む必要がある。特に日常業務においては、作成書類の種類やフォーマットの見直しを行うと同時に、ビジネス向けのアプリケーションやクラウドサービスの導入による効率化の検討が必要と考える。

(2) 出張・外出のべ日数

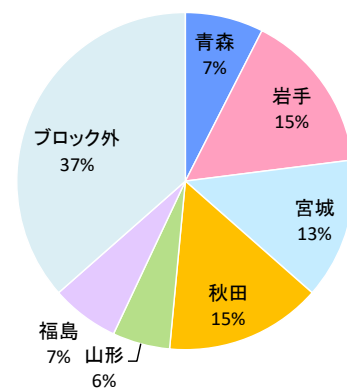
EPO 東北および東北地方 ESD 活動支援センター事業実施に伴い、関係者との打合せや会議参加などの定期的な外出が多く見られた。各事業の実施時期が重ならないよう配慮し、4 月から関係者へのヒアリングおよび企画調整に取り組んだ。EPO 東北および東北地方 ESD 活動支援センターが主催する事業と、他団体の協力・支援のための外出が重なったため、8 月から 11 月にかけて出張・外出が多くなっている。

のべ 200 日

■ 月別のべ出張・外出

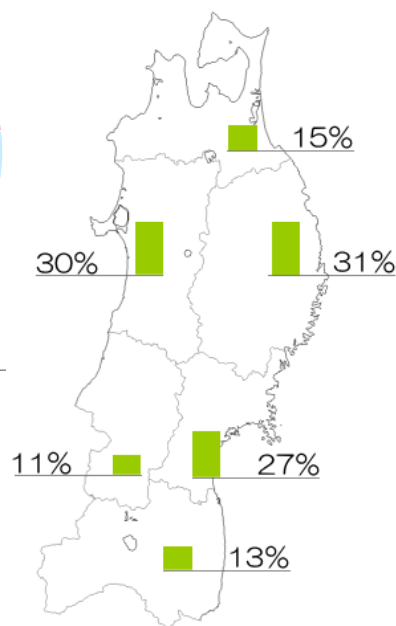


■ 地域別訪問状況

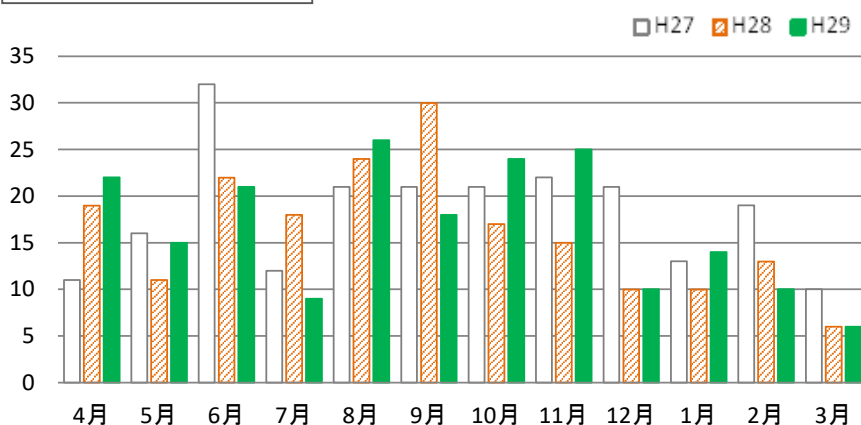


■ 東北 6 県訪問状況

のべ 125 日



■ 3 年間における比較



訪問ヒアリング 浄土ヶ浜ビジターセンター (5/13)



訪問ヒアリング (9/27)

(3) 事業実施一覧

1) 基本業務

① Web サイト等を活用した情報発信、PR ・Web サイト ・メールマガジン（月2回発行） ・機関紙 EPO 東北通信（年2回発行）	井上◎ 鈴木 小泉 石木田 吉田 （小山田） （山口）
②相談対応・対話の場づくり ・各種情報紹介 ・相談対応 ・東北管内における情報収集・支援	
③全国事業に関わる業務 ・全国 EPO 連絡会（2回）6/18-19、1/31 ・環境省平成30年度地域循環共生圏構築支援 全国ネットワーク構築検討業務 第1回ブロック会議研究会（2回） 10/17、2/14	
④施設の維持・管理 ・会議スペースの貸し出し ・情報誌・関連図書の貸出等	

2) SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務

・採択団体：三瀬地区自治会（山形市鶴岡市） ・月次報告の作成 ・各種会議の開催・参加 【主催】EPO 東北 ・審査会の開催 5/25 ・連絡会の開催（2回）10/15、2/8 ・地域連絡会（3回）7/3、11/24、2/14 【主催】採択団体 ・全体会（2回）8/3、2/14 【主催】全国事務局（GEOC） ・キックオフ会合 8/7 ・事業形成会議（2回）7/7、12/19	井上◎ 鈴木◎ 小泉
---	------------------

3) 環境教育・学習における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業（H28 年度～継続）

①過年度事業インタビュー調査 3 件 【青森県】NPO 法人青森県環境 パートナーシップセンター 【岩手県】マイムマイム奥州 【秋田県】一般社団法人あきた地球環境会議	井上◎ 鈴木 小泉 石木田 （小山田）
②過年度事業フォローアップ 対象：一般社団法人あきた地球環境会議 ・ツール検討・開発委員会（2回） 8/9、9/25 ・あきた次世代エネルギーパーク見学 9/25 ・評価会議 12/25	
③全国事務局による成果物作成への補助業務 ・編集ワーキング（3回） 5/9、9/12、12/20	
④成果報告会 2/18	

4) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

①ヒアリング調査 13 件	井上◎ 鈴木 小泉 石木田 （小山田） （山口）
②ビジターセンター交流会 2 回 第1回 6/4（宮城） 第2回 11/22（岩手） ビジターセンター・インフォメーションセンター職員を対象とした生物多様性、SDGs の勉強の機会を設け、業務の課題や改善について話し合う交流会を開催した。	



Green Gift 地球元気プログラム【岩手】(9/1)



ESD 実践拠点支援事業【青森】浦町小出前講座 (8/23)

5) 拠点間連携による地域内の 中間支援機能強化

再生可能エネルギー交流会 ①キーパーソン会議（2回）6/1、10/3 ②第5回みちのく薪びと祭り in 秋田梅内 11/3-4 EPO ちゅうごくとの共催により、中国地方の事例紹介を交えた交流会を開催した。企画においてはキーパーソンとの合意形成に留意し、各主体の積極的な参画を促した。	井上◎ 鈴木 小泉 石木田 吉田 (小山田) (山口)
--	---

6) 環境政策に係る企画提案等の支援

①各県環境課ヒアリング 6件 ②宮城県・仙台市・EPO 東北 意見交換会（2回）9/14、3/12 拠点施設の活性化と相互連携を目的に、2回の意見交換会を開催した。 ③ケーススタディから考える「協働」ワークショップ 6/14 政策協働について理解を深め、参加者の行動につなげることを目的に、東北の事例を基に課題や解決策を考えるワークショップを開催した。	井上 鈴木◎ 小泉
--	-----------------

7) 評議委員会・パートナーシップ団体会議の開催

①評議委員会（2回）5/29、3/13 ②パートナーシップ団体会議（1回）6/15	井上 鈴木 小泉◎ 石木田 吉田 (小山田) (山口)
--	---

8) 地方環境事務所との協働による事業実施

事業運営会議（5回） 東北地方環境事務所と協働による円滑な運営のために、情報共有及び意見交換を図るための定期的な会議を行った。	井上 鈴木 小泉◎ 石木田 吉田 (小山田) (山口)
--	---

9) その他

①スタッフ勉強会 ・運営第4期振り返りミーティング 9/19 ・リプルンふくしま施設見学および意見交換 12/14 ②EPO 間連携事業の実施 東日本大震災 語り部講師派遣事業 ア) EPO 中部 愛知県立千種高等学校 6/26 イ) EPO 四国 徳島県立富岡東高等学校 9/28 ③他団体との事業連携等 ア) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との協定に基づく連携 イ) GreenGift 地球元気プログラム 東北ブロックにおける地域の NPO との連携を支援する。 実施地域／青森県、岩手県、秋田県 ウ) 「社会人を対象にした地域の課題発見等に関する研修事業」に関するニーズ調査業務	井上◎ 鈴木 小泉 石木田 吉田 (小山田) (山口)
---	---



第5回みちのく薪びと祭り in 秋田梅内フィールドワーク（11/4）



EPO 受託団体会議（東京、1/31）

(4) 事業実施報告

1) 基本業務（仕様書番号Ⅲ - 1.- (1)）

① Web サイト等を活用した情報発信、PR（仕様書番号Ⅲ - 1.- (1) - ア）

●情報収集

地域の課題やニーズを把握するとともに、地域で環境活動に取り組む関係者との関係構築を目的に、東北各地で対面による情報収集に努めた。SDGs への関心の高まりを受けて、行政や企業に対してヒアリングを行い、今後の事業連携に向けた情報収集に取り組んだ。

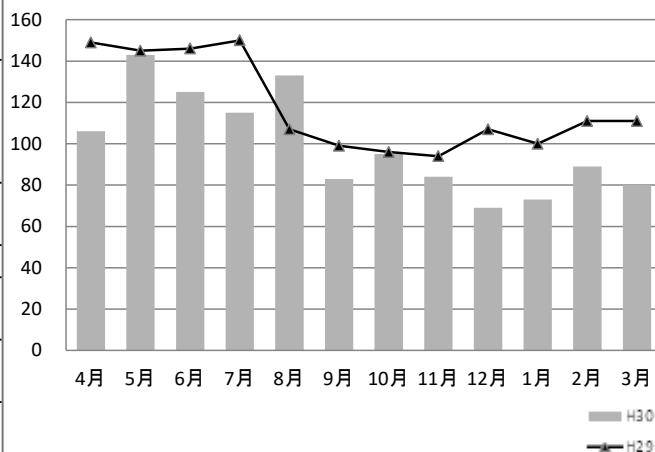
ウェブサイト

掲載コンテンツ	
EPO 東北 基礎情報	EPO 東北概要、事業計画、事業報告、オフィス案内、スタッフ紹介
環境 パートナーシップ	環境パートナーシップ支援、環境教育等促進法、事業型環境 NPO・社会的企業支援、持続可能な開発のための教育(ESD)
お知らせ	EPO 東北、環境省、各省庁、東北 6 県、市町村、イベント
助成金・募集情報	助成金、補助金、コンテスト等
活動のご報告	EPO 東北実施事業、催事協力、活動協力のレポート
東日本大震災の レポート	※新規掲載なし
その他	エコの日一覧、スタッフつれづれ日記、リンク、サイトマップ、プライバシーポリシー、お問合せフォーム

●情報発信

発信ツールを活用して、適宜収集した情報の発信に努めた。各地の環境施設とのつながりが広がったことをきっかけに、ウェブサイトやメールマガジンに情報を掲載するなど、情報発信の連携に努めた。

ウェブサイトアクセス数 1 日平均 99.6 件



メールマガジン

タイトル	東北えぼメール通信
内容	(1) お知らせ ① EPO 東北 ウェブサイト新着情報 ② 環境省 お知らせ情報 ③ その他 依頼によるお知らせ情報 (2) 助成金・募集情報 近日締切のピックアップ情報
登録者数	1,153 名
配信	月 2 回

機関紙

タイトル	TOHOKU EPO 通信
内容	①特集記事 ② ECO & 復興支援グッズ ③東北 6 県トピックス
発行部数	600 部
発行	年 2 回 (H30.8 月、H30.12 月)

●事業総括

【成果】

- ・スタッフ体制の変更に伴い役割分担を見直し、ウェブサイトの更新やメールマガジンの配信に滞りが出ないよう努めた。
- ・昨年度の情報収集で得た内容を基にヒアリングを実施し、地域のニーズを反映させた企画を実施することができた。

【課題】

- ・ウェブサイトへのアクセス数が昨年度と比べて減少傾向にある。特に主催事業の開催が集中する秋期以降のアクセス数現象が顕著にみられることから、掲載情報を含め運営体制の見直しが課題となる。
- ・機関誌では東日本大震災後から「復興支援グッズ」の紹介を掲載してきた。発災から 9 年が経過し、支援につながる活動の内容も変化してきたことを受けて、紙面の見直しが必要と考える。



平成 30 年度第 1 回 佐賀県地球温暖化防止活動推進員研修会（7/11）

②相談対応・対話の場づくり（仕様書番号Ⅲ－１．－（１）－イ）

No.	協力内容	開催日	主催	催事名等
1	名義後援	6/9～10	北の里浜花のかけはしネットワーク	ミニシンポジウム・ワークショップ&海岸活動 里浜の再生をむけて 地域で守り・育て・使う海辺を目指して
2		6/24	NPO 法人 環境パートナーシップいわて	世界首長誓約／日本 サステナビリティ・フォーラム 2018
3		2/11	南三陸町	KODOMO ラムサール in 南三陸町
4	活動支援	5/22	ペルノ・リカール・ジャパン	SDGs 勉強会
5		7/10	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	「自治体首長インタビュー」取材企画
6		7/11	佐賀県地球温暖化防止活動 推進センター	平成 30 年度第 1 回 佐賀県地球温暖化防止活動推進員研修会
7		7/12	佐賀県地球温暖化防止活動 推進センター	佐賀大学 環境講演会
8		10/24 ～11/1	一般社団法人 あきた地球環境会議	コタキナバル市におけるゴミ分別・回収ガイドライン 事業 サバ州地球温暖化防止活動推進センター設置事業
9		10/25 ～26	佐賀県地球温暖化防止活動 推進センター	さが再エネネットワーク再生可能エネルギー 視察研修会
10		12/14	福島地方環境事務所	福島情報発信拠点意見交換会事業
11	講師協力	3/14	秋田県生活環境部 温暖化対策課	地域コミュニティ活性化セミナー ～地域活動と環境保全を考える～
12		3/15	株式会社 仙台リサイクルセンター	SRC 人財ネット活動説明会

委員協力

No.	主催	会議名
1	青森県環境生活部環境政策課	「親子で楽しく学ぶ体験型環境教育プラン 企画運営業務」企画提案競技審査会
2	宮城県環境生活部環境政策課	ダメだっちゃん温暖化県民会議
3	宮城県自然保護課	宮城県自然環境保全審議会
4	仙台管区气象台	東北地方気候情報連絡会
5	一般社団法人あきた地球環境会議	コタキナバル市における ゴミ分別・回収ガイドライン事業
6	一般社団法人あきた地球環境会議	サバ州地球温暖化防止活動 推進センター設置事業
7	福島地方環境事務所	情報発信拠点 運営委員会

その他相談対応

- ・企画への助言
- ・講師紹介
- ・広報協力
- ・情報提供、事例紹介

等

相談対応件数 121 件

③全国事業に関わる業務（仕様書番号Ⅲ－１．－（１）－ウ）

会議名		開催日	場所	参加
全国 EPO 連絡会議	第 1 回	6/18-19	京都	井上、鈴木
	第 2 回	1/31	東京	井上、鈴木、小泉
環境省平成 30 年度地域循環共生圏構築支援 全国ネットワーク構築検討業務 ブロック会議研究会	第 1 回	10/17	東京	井上、鈴木
	第 2 回	2/14	東京	欠席

④施設の維持・管理 （仕様書番号Ⅲ－１．－（１）－エ）

開館状況	開館日数	240 日
	来場者数	298 人
会議スペース の提供	利用件数	38 回
	利用者数	225 人
図書資料等 の提供	提供実績	95 回
	追加収集した資料等	202 件



第 1 回全国 EPO 連絡会議（6/19）

(4) 事業実施報告

2) SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務 (仕様書番号Ⅲ-1.- (2))

●事業背景

日本では平成 28 年に SDGs 推進本部を設置して取組を推進しているが、国内では SDGs についての理解や具体的な取組等が十分に進展しているとは言えない状況にある。

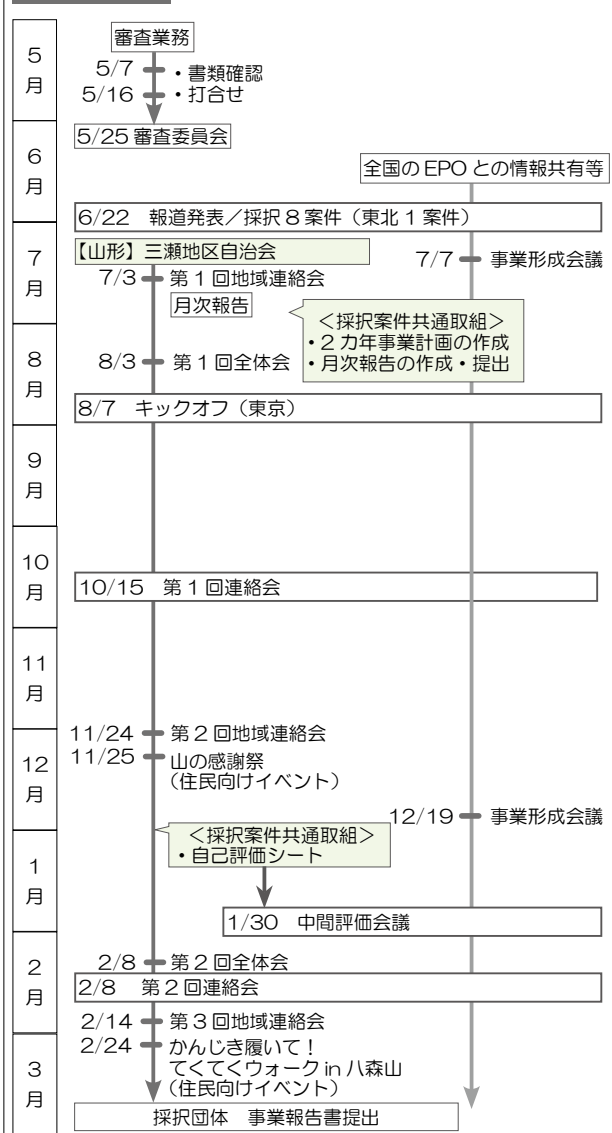
本事業は地域における環境課題への取組を、SDGs を活用することにより他の社会課題の取組と統合的に進めることで、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を促進することを目的としている。事業全体の実施期間は平成 30 年から 31 年度までの 2 年とし、公募により全国で 8 事業が採択された。地方 EPO は地域支援事務局として伴走型支援を行った。



採択団体【山形】三瀬地区自治会

プロジェクト名：鶴岡市三瀬地域 木質バイオマスエネルギーの自給自足活動

事業プロセス



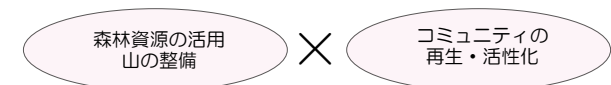
●事業背景

昭和 25 年頃には 3,500 人いた人口が、現在では 1,500 人を割り少子高齢化に直面している。林業衰退の影響で森林荒廃が広がり、地域内で利用されているエネルギー（重油、灯油）を貨幣換算すると地域外に約 1 億円が流出している。人口減・コミュニティの保持への対策として、三瀬地域では再生エネルギー事業、防災事業などさまざまな事業に取り組んでいる。

●本事業で解決に取り組む地域課題

- ・地域材の活用場がない
- ・里山の荒廃と里山利用の減少
- ・住民の地域への関心低下

●プロジェクト概要



①地域材の活用

保育園、コミュニティセンター、高齢者福祉施設への薪ボイラー・薪ストーブ導入を目指す。

②里山の利用

地域住民向けのイベントを開催し、森林の価値、管理の大切さについて理解を図る。

③住民の地域への関心を高める

森林への興味を持ってもらいイベントを開催する。同時に参加者の健康促進、世代間交流の場づくりを行う。

●EPO 東北のアプローチ

- ・2 力年事業計画の作成支援を通して、本事業で取り上げる地域課題や取組内容の整理に取り組んだ。
- ・連絡会の場を活用し、事業内容と SDGs を深める勉強会を企画・開催した。

● 1 年目の取組

〔SDGs 勉強会の実施〕

三瀬地区の区長、鶴岡市職員の参加を促し、第 1 回連絡会の中で SDGs 勉強会を実施した。



第 1 回連絡会 SDGs 勉強会 (10/15)

〔薪ボイラー・薪ストーブの導入〕

○三瀬保育園

園庭で泥遊びをした後に使用するシャワーの給湯設備として薪ボイラーを設置した。

○コミュニティセンター

導入に向けて関係各所との合意形成を進めた。

○高齢者福祉施設

次年度の取組みとする。



三瀬保育園の園庭 泥遊びをした後にシャワーを使用する

〔津波避難路の整備〕

豊浦小学校全校児童約 120 名と自治会が協力し、小学校の裏山の避難路に地元産の木質チップを敷き詰めた。



津波避難路へ木質チップの敷き詰め作業 (10/16)



津波避難路の整備 (10/16)

●事業総括

【成果】

- ・三瀬保育園に薪ボイラーが導入され、コミュニティセンターへの導入に前向きに検討が進んでいる。
- ・地縁組織として同時解決事業への親和性が高い。三瀬地区では地域ビジョンを考えるワークショップが行われており、住民から出された地域課題を本事業にも反映させた。
- ・SDGs 勉強会に区長や行政職員の参加があり、SDGs およびプロジェクトへの理解が深まった。

【課題】

- ・福祉施設への薪ストーブ導入に向けて丁寧な合意形成が必要となる。
- ・三瀬保育園の薪ボイラー導入前後を比較するためのデータ収集の他、園内での木育への活用等のフォローアップが求められる。
- ・プロジェクトの見える化と、住民向けのわかりやすい情報発信が課題となる。



キックオフ ポスターセッション (東京、8/7)

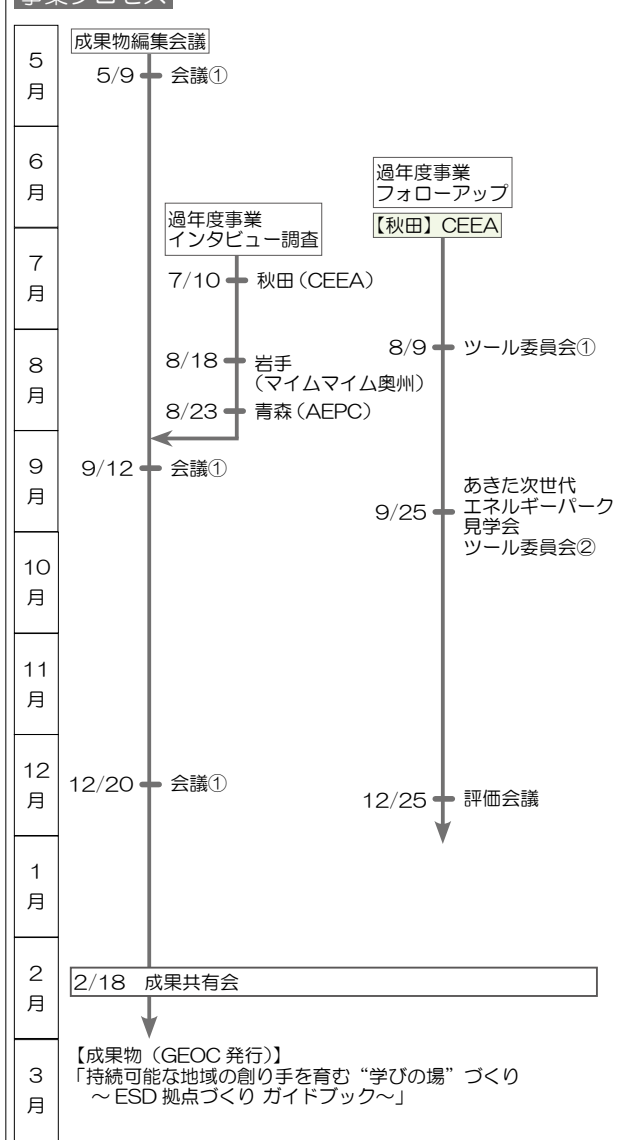
(4) 事業実施報告

3) 環境教育・学習における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業（仕様書番号Ⅲ-1.-（3））

●事業背景／H28 年度からの継続事業

文部科学省・環境省が中心となって分野や地域を越えた ESD 推進ネットワークの構築に努めており、地域活動拠点の形成が要の 1 つとして位置づけられている。本事業は、地域の環境教育・学習拠点が ESD の視点を踏まえた環境教育等の取組を自らデザインでき、かつ他の拠点の支援も行えるようになるよう拠点機能強化の伴走支援を行い、その変容プロセスを可視化・共有化することで ESD 推進ネットワーク全体の底上げを図ることを目的に平成 28 年度から実施している。本年度は支援拠点のフォローアップを中心とし、過年度事業のインタビューを基に取組を整理して、成果物の編集が行われた。

事業プロセス



●H28 年度～H30 年度事業 支援拠点一覧

	H28	H29	H30
マイムマイム奥州	○	—	—
AEPC	○	○	—
CEEA	—	○	○

※団体名（正式名称）

CEEA…一般社団法人あきた地球環境会議

AEPC…NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター

①過年度事業インタビュー調査

【青森県】NPO 法人青森県環境

パートナーシップセンター

【岩手県】マイムマイム奥州

【秋田県】一般社団法人あきた地球環境会議

事業に取り組んだ結果、強化できた機能（体制、ツール、人材等）、効果的だった EPO の支援、事業の成果など 8 項目についてインタビューを行った。

●成果物

3 年間の成果を「ESD を実践している施設」や今後「ESD を実践してほしい施設」の後押しになるような、「潜在的 ESD 実践拠点の掘り起こし」を目的としたガイドブックが作成された。

【成果物（GEOC 発行）】

「持続可能な地域の創り手を育む“学びの場”づくり～ESD 拠点づくり ガイドブック～」

※ GEOC ウェブサイトでダウンロード可

●成果共有会

成果共有会では「ESD 実践拠点づくり」事例紹介が行われ、東北からは青森県の事例を紹介した。環境学習ツールの開発に携わった方にご登壇いただき、分科会ではツール作成のプロセス等について参加者と意見交流を行った。

開催概要

催事名	【成果共有会】安心して心豊かに暮らせる地域の創り手を育む拠点づくり
開催日	H30.2.18（月）
会場	シティラボ東京（東京）
参加者	約 70 名
主催	環境省
内容	①「ESD 実践拠点づくりガイドブック」紹介 ②「ESD 実践拠点づくり」事例紹介 ③事例ごとにわかれて分科会



成果共有会（東京、2/18）

②過年度事業フォローアップ【秋田】一般社団法人あきた地球環境会議（CEEA）

●事業背景

秋田市は第13次秋田市総合計画の中の成長戦略の1つに「豊かな自然をいかした環境立市の確立」を掲げている。秋田市が提案した「あきた次世代エネルギーパーク計画」が2014年10月に経済産業省の「次世代エネルギーパーク」として認定された。CEEAではあきた次世代エネルギーパーク見学受付窓口と視察ガイド業務を担っている。

平成29年度事業においてあきた次世代エネルギーパークの効果的な普及啓発手法について検討を行い、秋田市内の再生可能エネルギー施設の情報整理に取り組み、施設見学ガイドのエクスプローラー（ガイド用解説書）を作成した。



第1回ツール委員会（8/9）

●課題

エクスプローラー（ガイド用解説書）について、昨年度は主要施設の基礎情報をまとめており、42の施設があることを伝える内容ではない。関係各所とのネットワークを構築し、定期的な見直しが行われる体制構築が課題となっている。

●プロジェクト概要

「あきた次世代エネルギーパークエクスプローラー（ガイド用解説書）」の補完を行うにあたり、秋田市との情報共有に取り組み、連携強化を図る。新エネルギー設置事業者との関係構築に努め、定期的な情報の見直しに向けた体制が構築する。



あきた次世代エネルギーパーク見学会（9/25）

●EPO 東北のアプローチ

- ・エクスプローラーにESD視点を反映させるため、ツール委員会を開催しブラッシュアップに向けた議論を促した。
- ・ESD活動拠点として機能の拡充を目指し、視察ガイド業務の整理を行った。



第2回ツール委員会（9/25）

●事業総括



第2回成果物編集会議（9/12）

【成果】

- ・秋田市ではエクスプローラーを定期的に見直す体制が確立できた。
- ・過年度事業の案件においても、本事業を通して活動がブラッシュアップされたことをきっかけに、地域におけるESD活動の活性化が見られた。EPO東北ではフォローアップの視点から他地域との連携を支援し、教育委員会や学校との交流が生まれた。
- ・地域でESDを広めるための戦略を関係者間で議論する土壌が生まれ、ESD活動拠点として機能が強化された。

【課題】

- ・本事業は平成30年度で終了となることから、今後は東北地方ESD活動支援センター事業での連携により、活動の継続的な支援とネットワーク作りが課題となる。

(4) 事業実施報告

4) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務（仕様書番号Ⅲ－1.－（4））

東北地方ビジターセンター交流会

●事業背景

第5次環境基本計画では目指すべき社会の姿として「地域循環共生圏」の創造を掲げている。地域資源を活かし、地域の特性に応じて保管し、支え合う形を目指しており、生物多様性・森里川海を入口とした学習施設であるビジターセンター、インフォメーションセンターの活用が期待される。EPO 東北ではこれらの施設とのつながりが弱く、各センターではESD およびSDGs に紐づけた事業展開をしていないことから、相互理解と学習の機会を設け、ネットワークの拡充に取り組むこととした。

●課題

- ・展示や企画を改善したいと考えているが、人や資金の問題から難しい。
- ・交通手段が車に限られる立地であることから、集客が課題となっている。
- ・運営面で多くの課題を抱えている。

●プロジェクト概要

施設連携を進めるにあたり、本年度は環境省管轄のビジターセンター・インフォメーションセンターを対象に交流会事業を実施した。第1回目は関係者の顔合わせとESD・SDGsの理解を目的とした学習会を行い、第2回目は各センターが抱える課題を共有し解決に向けた意見交換を行うワークショップを行った。2回の交流会を通して有益な学びの場を創出するとともに、EPO 東北及び関係者間で顔の見える関係性を構築することとした。

●EPO 東北のアプローチ

①訪問ヒアリング

ビジターセンター・インフォメーションセンター計13施設を訪問し、顔の見える関係づくりに努めた。またヒアリングにより各センターのニーズや課題を把握し、企画に反映させた。

②ファシリテーターとの連携

第1回、第2回、それぞれに外部のファシリテーターを招致した。事前に各センターが抱える課題等を共有し、ワークショップの方向性および手法について調整を行った。

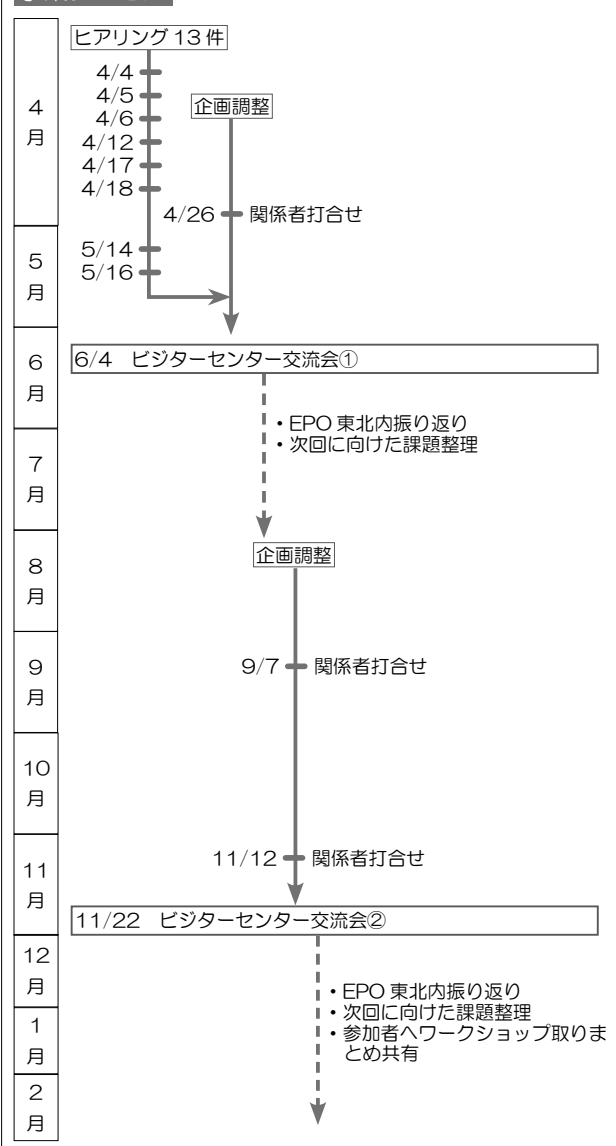
③関係者との合意形成

第1回は交流会実施の意義を確認する目的を含み、関係構築に留意した。第2回は参加者の相互交流を軸に企画し、開催地となった網張ビジターセンターと調整を図りながら活発な意見交換の機会となるよう場づくりに取り組んだ。

●ヒアリングで確認したニーズ

- ・互いに学び合う交流の機会が欲しい。
- ・ノウハウの共有をしたい。展示についてすぐに取り入れられる工夫が知りたい。
- ・EPO 東北には交流会を含め、マッチングのハブ機能として期待している。
- ・現場の意見を取り入れた交流会を企画してほしい。

事業プロセス



訪問ヒアリング（5/13）

開催概要

催事名	第1回東北地方ビジターセンター交流会	
開催日	H30.6.4（月）	
会場	仙都会館 5B（宮城県仙台市）	
参加者	34 名	
主催	EPO 東北	
協力	GEOC	
内容	各団体紹介	
	話題提供	「地域の自然と人、学びをつなぐ ～ ESD・SDGs の文脈から～」 尾山優子氏（GEOC）
		「ESD、生物多様性と普及啓発活動」 常富豊氏（環境省東北地方環境事務所 次長）
		「東北の災害復興と SDGs」 小沢晴司氏（環境省東北地方環境事務所 所長）
	意見交換 ワークショップ	【ファシリテーター】白川勝信氏 （北広島町立 芸北 高原の自然館）



第1回 センター紹介（6/4）



第1回 意見交換ワークショップ（6/4）

催事名	第2回東北地方ビジターセンター交流会	
開催日	H30.11.22（木）	
会場	網張ビジターセンター（岩手県岩手郡雫石町）	
参加者	33 名	
主催	EPO 東北	
協力	網張ビジターセンター	
内容	館内展示に関する意見交換 【進行】大堀拓氏（網張ビジターセンター）	
	話題提供	「東日本大震災からの復興」 佐々木洋介氏（浄土ヶ浜ビジターセンター）
		「地域との関わり、展示の創意工夫、課題について」 ①平井和也氏（石巻・川のビジターセンター / 南三陸・海のビジターセンター） ②栗城昭義氏（裏磐梯ビジターセンター） ③菅沼慶太氏（白神山地世界遺産センター（藤里館））
	意見交換 ワークショップ	【ファシリテーター】平田裕之氏 （一般社団法人コ・クリエーションデザイン）



第1回 意見交換ワークショップ（6/4）



第2回 話題提供（11/22）



第2回 意見交換ワークショップ（11/22）

●事業総括

【成果】

- ・2回の交流会を通して顔の見える関係づくりに取り組むことができた。
- ・第2回交流会ではセンター運営に関する具体的な例示と課題共有を行い、満足度の高い交流会を開催することができた。3～4名の少人数ワークショップを行うことで参加者全員が発言し、議論を深める場づくりができた。

【課題】

- ・交流会の継続開催や、普段から情報共有・意見交換を行えるシステム作りを望む声が寄せられており、段階的な体制づくりに向けて東北地方環境事務所との協議が必要となる。
- ・ESD、SDGsの勉強の機会を設けたものの、各センターの日頃の事業との紐づけまでは至っておらず、継続したアプローチが求められる。

(4) 事業実施報告

5) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化（仕様書番号Ⅲ - 1.- (5)）

第5回みちのく薪びと祭り in 秋田梅内

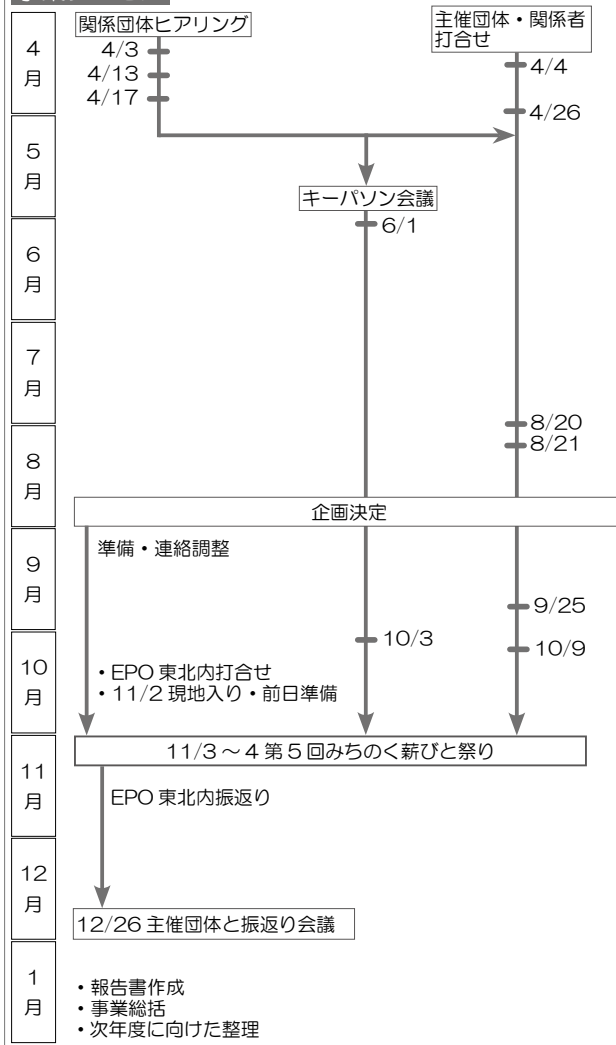
●事業背景／平成23年度からの継続事業

再生可能エネルギーは災害などによる供給リスクの軽減（エネルギー源の多様化と分散化が図れる）という社会的な側面を持つことが注目されている。特に、森林エネルギーにおいては震災時に薪ストーブが機能した事例が多く見られた。東北地方の豊富な森林資源の地域循環エネルギーとしての可能性を探るため、平成26年度より薪をテーマに活動する団体が一堂に会する「みちのく薪びと祭り」を実施し、東北各地の団体同士の交流が活発になっている。

●これまでの開催状況

	開催地	主催
第1回 (H26)	山形県鶴岡市 三瀬地区	みちのく薪びと祭り 山形実行委員会
第2回 (H27)	岩手県 遠野市	NPO 法人遠野エコネット、 EPO 東北
第3回 (H28)	福島県 南会津町	NPO 法人みなみあいづ森林 ネットワーク、EPO 東北
第4回 (H29)	宮城県大崎市 鳴子地区	NPO 法人しんりん、 EPO 東北

事業プロセス



●ヒアリングで確認したニーズ

- ・新しい参加団体に対して、薪びと祭りで受けた刺激を自分の地域に持ち帰り、新たに取組をスタートするきっかけを提供できる会にしたい。
- ・さまざまな団体や地域が巻き込まれて、広がっていく形が望ましい。
- ・市民活動の性質上、活動や情報が劇的に広がるわけではない。徐々に広まる中で各地のリーダーが育つことが、本事業の成果となる。
- ・地域の資源活用を継続するヒントを得たい。
- ・成功事例だけではなく、失敗事例も知りたい。

●ヒアリングで確認したこれまでの成果等

- ・福島開催時は「湯本じゃまな木切っ会」立ち上げのきっかけになるなど、ネットワークが強固になり、地域活性化に大きく貢献した。
- ・東北の先進的な動きについて情報交換できる機会である。各県の現場を見学することで情報を得られ、それが刺激になる。
- ・開催準備を通して、新たな団体の掘り起こしや立ち上げ、地元団体のマッチングの機会になっている。
- ・他の団体と関わる中で、自分の団体の強みや弱みを見つめ直し、視野を広げる機会になっている。
- ・真剣に山や薪に向き合っている者や地域同士が、本当に課題だと感じていることを出し合える場になっている。



キーパーソン会議①（6/1）



キーパーソン会議②（10/3）

●課題

- ・森林エネルギーに関する団体同士が、県境を越えて継続的に情報交換や意見交換などを行う交流の場が少ない。
- ・分科会の進行について、昨年度は自己紹介に時間が取られ意見交換が深まらなかった反省点がある。進行役は予め参加団体の情報を把握しておくなどの改善が必要だ。
- ・開催地である秋田の団体の意向を反映させ、地域の関係者を巻き込むことで、活動の活性化に資する催しとなることが求められる。

●プロジェクト概要

- ・薪を中心とした森林エネルギーに関する団体同士のネットワーク構築を手法に用い、東北地方の森林エネルギー活用（薪文化）水準の底上げを目的とする。
- ・秋田県能代市梅内聚落の取組を東北各地の団体と共有し、情報交換や意見交換などの交流を通して、参加者が活動に取り組む上で抱える課題解決のヒントを得る機会とする。

●EPO 東北のアプローチ

- ①主体性を引き出す仕掛けの設定（H29 年度から継続）各県のキーパーソンによる方向性検討会議を開催し、主体性を持って参加してもらえるよう合意形成を図った。
- ② EPO ちゅうごくとの連携
「みちのく薪びと祭り」中国地方版の開催を視野に、EPO ちゅうごくとの共催による企画運営を進めた。中国地方の関係団体を招聘することで、地域を超えた学び合いや交流を促した。



開催地での事前打合せ（10/9）

開催概要

催事名	第5回みちのく薪びと祭り in 秋田梅内	
開催日	H30.11.3（土）～4（日）	
場所	梅内聚落会館とその周辺（秋田県能代市ニツ井町）	
参加者	57名（第1部57名／第2部57名／第3部56名／第4部55名）	
主催	ニツ井宝の森林（やま）プロジェクト、EPO 東北	
共催	EPO ちゅうごく	
協力	薪ストーブ愛好会くべる部、いちのせき薪の会、NPO 法人遠野エコネット、NPO 法人吉里吉里国、西和賀町林業振興課、NPO 法人川崎町の資源をいかす会、NPO 法人しんりん、白神里山クラブ、あきた森づくり活動サポートセンター、三瀬の薪研究会、やまがた自然エネルギーネットワーク、NPO 法人みなみあいづ森林ネットワーク、ふくしま薪ネット、NPO 法人南会津はりゅう里の会、NPO 法人湯田組、EIMY 湯本地域協議会	
後援	能代市、ABS 秋田放送、秋田魁新報社、北羽新報社	
内容	第1部	
	基調講演	「薪を未来に託す」 木平英一氏（株式会社ディーエルディー）
	第2部	
	活動発表	【福島】 渡部昌俊氏（ふくしま薪ネット） 【岩手】 根岸由佳氏（西和賀町林業振興課） 【山形】 石塚慶氏（三瀬の薪研究会） 【中国地方】 松原裕樹氏（EPO ちゅうごく）、白川勝信氏（芸北せどやま再生会議）
	第3部	
	分科会	テーマ
		①生業グループ
		②技術グループ
		③薪ストーブ愛好家グループ
	講師	新妻弘明氏（東北大学名誉教授・ノコギリリスト）
	第4部	
	フィールドワーク	ニツ井宝の森林プロジェクト「薪づくり抽選会」

(4) 事業実施報告

5) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化（仕様書番号Ⅲ - 1.- (5)）



第2部活動発表（11/3）



第2部活動発表（11/3）



第3部分科会（11/3）



秋田から青森（第6回開催地）へリレーボードの受け渡し（11/3）



第4部フィールドワーク（11/4）



第4部フィールドワーク（11/4）

●事業総括

【成果】

- ・昨年度からキーパーソンを協働主体として巻き込むよう留意し、事前準備から当日の運営に至るまで役割分担のもと実施することができた。中期事業計画に掲げた「皆で協働する会」へ近づけることができた。
- ・EPO ネットワークを活用し、EPO ちゅうごくとの共催が実現した。中国地方では東北の取組を参考に、「中国地方版薪びと祭り」の実施が検討されている。
- ・開催地となった梅内集落ではみちのく薪びと祭りをきっかけに、過疎化が進む中で外部との連携等について議論され、今後は積極的に集落で外部からの依頼を受け入れていく方針が出された。

【課題】

- ・次年度は青森県開催が予定されており、第6回目の開催を迎える。薪びと祭りの東北一周を達成することから、EPO 東北としてこれまでの総括を行う必要がある。
- ・関係団体と今後の方向性について議論する必要がある。

6) 環境政策に係る企画提案等の支援（仕様書番号Ⅲ - 1. - (6)）

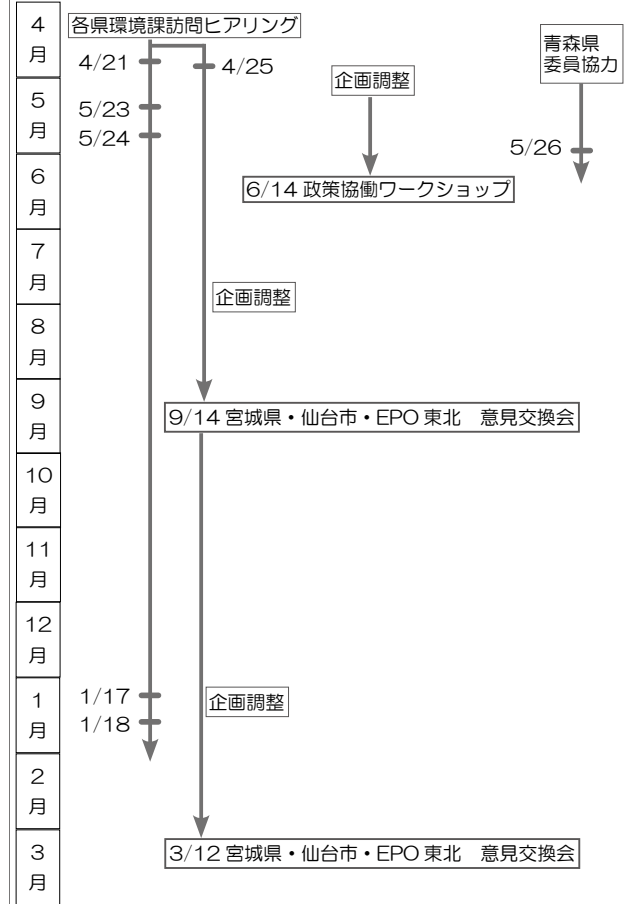
●事業背景

過年度事業において政策提言の手法を学ぶ講座を企画したが、多くの団体が提言活動に取り組みたいと考えていないことがわかった。その後、行政の環境教育担当者を対象とした意見交換会を実施したが、各県の施策により方針が違ふことから議論の深まりに欠けた。平成 26 年度以降は各県の環境課を訪問し、担当者が入れ替わっても EPO 東北を認知してもらえるよう PR するとともにニーズ調査のためのヒアリングを実施してきた。情報共有と関係構築のために、平成 30 年度も同様に実施することとし、新たに政策協働を学ぶワークショップを実施した。



秋田県庁訪問ヒアリング（5/23）

事業プロセス



①各県環境課訪問ヒアリング

●事業概要

担当者が異動となっても EPO 東北との関係性を継続させること、事業連携等の糸口を探ることを目的に、訪問ヒアリングを実施した。

●ヒアリングで確認したニーズ

- ・ EPO 東北には講師等の紹介を行ってほしい。
- ・ SDGs・ESD については県職員がほぼ認識がないため、勉強会等を行い少しずつ認知度を上げていきたい。勉強会等の手法についてアドバイスがほしい。

●課題

- ・ 環境教育専門員や地球温暖化防止活動推進員等の高齢化、後継者不足に対して課題を抱えている。
- ・ イベント等の企画内容の検討、集客に関して担当者や課内での対応の難しさを感じている。

●事業総括

【成果】

- ・ 平成 26 年度から毎年継続してきたことで、前任者から引き継ぎを受けているケースが増えており、情報照会や相談先としての認知が得られている。
- ・ 対面による情報交換をきっかけに、EPO 東北が支援する地域の取組みに県職員がオブザーバーで参加するなど、活動の広がりがみられた。
- ・ 訪問ヒアリングをきっかけに、SDGs に関する問い合わせや講師紹介等の依頼、広報の協力等の相談が寄せられるようになった。

【課題】

- ・ ヒアリングの中で講師紹介等の依頼やイベント等の企画内容への相談等が寄せられるようになってきたが、ヒアリング後実際に支援・連携まで至っていないため、担当者へのアプローチを行う必要がある。
- ・ SDGs / ESD に関してはどの県も施策に入れる動きや県内の団体等への活用の場の提供等を推進したい意向があり、具体的な手法等について支援・連携できるよう担当者へのアプローチが必要である。

(4) 事業実施報告

6) 環境政策に係る企画提案等の支援（仕様書番号Ⅲ-1.-（6））

②宮城県・仙台市・EPO 東北 意見交換会

●事業背景／平成 27 年度からの継続事業

宮城県は平成 27 年度に、仙台市は平成 28 年度にそれぞれ環境情報を発信する拠点施設をリニューアルオープンさせており、地域での活用促進が望まれる。情報発信や拠点機能を有する施設間の関係構築を目的に、平成 27 年度より定期的な意見交換の場づくりを行ってきた。

●ヒアリングで確認したニーズ

- ・他の環境センターの運営に関心がある。
- ・運営のヒントになる学びの場、情報交換の場を求めている。

●課題

- ・環境学習拠点の活用
- ・施設利用者層を把握し、ニーズに合った情報やサービスの提供等、アプローチの模索

●プロジェクト概要

過去 3 年間にわたり継続開催してきたことで、担当者にも情報交流の場として認知されている。4 年目となる本年度は施設運営や課題の共有に加えて、各施設で取り組みが始まっていないことから、SDGs について勉強の機会を設ける。

開催概要

催事名	第 1 回 宮城県・仙台市・EPO 東北 意見交換会
開催日	H30.9.14（金）
会場	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	9 名
主催	EPO 東北
内容	①各施設 H30 年度事業計画、課題報告 ②意見交換 ③ SDGs について

催事名	第 2 回 宮城県・仙台市・EPO 東北 意見交換会
開催日	H31.3.12（火）
会場	宮城県環境情報センター（宮城県仙台市）
参加者	7 名
主催	EPO 東北
内容	①各施設 H30 年度事業、課題報告 ②意見交換 ③ SDGs について



第 1 回意見交換会（9/14）



第 1 回意見交換会（9/14）

●事業総括

【成果】

- ・担当者間で具体的な運営手法や課題への対応を相談する意見交換の場が醸成できた。
- ・SDGs・ESD の基礎をまず知ってもらい、自分事として捉えてもらえる企画内容を 2 回とも組み立てたことにより、担当者の理解度が深まった。

【課題】

- ・担当者同士も顔なじみとなり、お互いの活動の認識も出来ているが何らかの事業連携までは至らず、情報交換の場で留まっている。
- ・SDGs・ESD を各施設の取り組みに活かしたいという意向が確認できたが、実施に向けて具体的な提案を行うなどアプローチを検討する必要がある。

③青森県「親子で楽しく学ぶ体験型環境教育プラン企画運営業務」企画提案競技審査会 委員協力

●事業背景／H29 年度から継続

青森県では、平成 28 年 3 月に策定した第 5 次青森県環境計画において、子どもから大人まで青森県の環境を守り・つなぐ人づくりと仕組みづくりを重点施策として掲げている。平成 27～28 年度にかけては、関係者が「協働」について学ぶ催事が行われ、EPO 東北では企画運営に協力をしてきた。

平成 29 年度からは、事業者、NPO などさまざまな主体が連携・協働して行う、親子向けの体験型環境教育の企画提案型事業を実施している。EPO 東北は企画提案競技審査員の依頼を受けて協力した。

●協力内容

一次審査：書類審査 5 月上旬
 二次審査：公開審査 5 月 28 日（月）
 新町キューブ 3F 会議室（青森市）
 ≪応募数と審査結果≫
 応募数：10 件
 審査結果：優秀提案 4 件

④ケーススタディから考える「協働」ワークショップ

●事業背景

環境省では平成 25 年度から平成 29 年度に協働取組加速化事業を実施し、本事業から得られた知見を取りまとめた「環境保全からの政策協働ガイド」を作成した。平成 30 年度は各地方 EPO において、協働取組や環境政策への市民参加を促進するために、本ガイドを活用したワークショップ等の開催に取り組んだ。

●課題

現在の社会課題は複雑に絡み合い、多様なセクターによる連携・協働が求められている。一方で現場では事務局主軸、メンバーの固定化によるマンネリ化などが課題となるケースが多い。幅広い主体が協働で取り組むことで、公益としての住民利益、事業者利益を多用に創出することなどの理解、認知が進んでいない等の課題がある。

開催概要

催事名	ケーススタディから考える「協働」のワークショップ ー東北の事例から協働を学びませんかー
開催日	H30.6.14（木）
会場	PARM-CITY131 3F ANNEX 多目的ホール（宮城県仙台市）
参加者	14 名
主催	EPO 東北
講師	平田裕之氏 （一般社団法人コ・クリエーションデザイン）
内容	①講話 「政策協働、チェンジエージェント機能」について ②ケーススタディから考えるワークショップ [ケーススタディ 1] 引きこもり対策と森林再生事業の連携 [ケーススタディ 2] イ市次世代エネルギーパーク事業

●プロジェクト概要

協働を促進させる機能や役割に焦点を当て、東北の事例を基にしたフィクションを題材に、具体的なアクションを考えるワークショップを開催した。

●EPO 東北のアプローチ

過去の事業において、政策提案や政策協働を学ぶ企画へのニーズが低く参加者が少なかったため、パートナーシップ団体を対象としたワークショップを開催し、今後に向けて改めてニーズの有無を把握すること、ケーススタディによるワークショップの効果を測ることとした。



ケーススタディから考える「協働」のワークショップ（6/14）

●事業総括

【成果】

- ・東北地方の事例を基にしたフィクションを題材にしたことで、親近感を持って具体的な改善案を話し合う場ができた。
- ・お互いを理解することの重要など協働の鍵となる部分の理解が深まり、「ガイドを行政と共有して勉強会を実施したい」など前向きな意見が出された。

【課題】

- ・丁寧な説明とケーススタディによって理解が進んだが、ガイド本の配布だけでは言葉が難しく、活用のためには支援が必要となる。
- ・言葉が難しいとの指摘も出ていることから、参加者を広く募集する場合は広報の仕方や広報先が課題となる。

(4) 事業実施報告

7) 評議委員会・パートナーシップ団体会議の開催（仕様書番号Ⅲ-1-（7））

評議委員会

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
議長	新妻弘明	東北大学名誉教授、 日本 EIMY 研究所所長
委員	遠藤智栄	地域社会デザイン・ラボ
	小金澤孝昭	宮城教育大学教育学部 特任教授
	澤田靖	青森県環境生活部環境政策課 課長
	西山栄作	一般社団法人東北経済連合会
	溝口忠昭	みやぎ環境カウンセラー協会 代表
	渡辺秀徳	福島県生活環境部 生活環境総務課 課長

●開催

第1回評議委員会	
開催日	H30.5.29（火）
会場	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	16名（評議委員4名、代理出席1名）
内容	①議長選出 ②EPO 東北事業の説明 ③意見交換
第2回評議委員会	
開催日	H31.3.13（水）
会場	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	14名（評議委員4名、代理出席2名）
内容	①EPO 東北 H30 年度事業報告 ②意見交換



第1回 評議委員会（5/29）

パートナーシップ団体会議

●パートナーシップ団体名簿

青森県	NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター NPO 法人 ECO リパブリック白神
岩手県	NPO 法人環境パートナーシップいわて
宮城県	NPO 法人環境会議所東北 NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター 仙台広域圏 ESD・RCE
秋田県	NPO 法人環境あきた県民フォーラム 一般社団法人あきた地球環境会議
山形県	NPO 法人環境ネットやまがた
福島県	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
東京都	一般社団法人環境パートナーシップ会議

●開催

開催日	H30.6.15（金）
会場	仙台第2合同庁舎 2F 会議室 （宮城県仙台市）
参加者	26名／8団体
内容	①各団体紹介 ②H30 年度の EPO 東北事業計画説明 ③意見交換



パートナーシップ団体会議（6/15）

8) 地方環境事務所との協働による事業実施（仕様書番号Ⅳ）

事業運営会議

●構成団体

東北地方環境事務所
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
EPO 東北

●開催

開催日	第1回	H30.5.18（金）
	第2回	H30.8.10（金）
	第3回	H30.10.1（月）
	第4回	H30.12.10（月）
	第5回	H31.2.12（火）
場所	EPO 東北（宮城県仙台市）	
内容	①EPO 東北事業の進捗確認 ②意見交換	



事業運営会議（8/10）

9) その他

① スタッフ勉強会

● 勉強会の開催

運営第4期振り返りミーティング	
開催日	H30.9.19 (水)
会場	EPO 東北 (宮城県仙台市)
ゲスト スピーカー	新妻弘明 (東北大学名誉教授、 日本 EIMY 研究所所長)
内容	①ゲストスピーカーより問題提起 ②意見交換



運営第4期振り返りミーティング (9/19)

リプルンふくしま施設見学および意見交換	
開催日	H30.12.14 (金)
会場	特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま (福島県双葉郡富岡町)
参加団体	リプルンふくしま 環境再生プラザ 環境省福島地方事務所 EPO 東北
内容	①施設見学 ②各団体事業紹介 ③意見交換



リプルンふくしま施設見学および意見交換 (12/14)

② EPO 間連携事業の実施

● 「ESD 学びあいフォーラム」 東日本大震災からの学びを伝える語り部講師派遣事業 / H26 年度から継続

実施校	愛知県立千種高等学校 (愛知県名古屋市)
開催日	H30.6.26 (火)
講師	山内宏泰氏 (リアスアーク美術館副館長 / 学芸係長・学芸員)
協力	EPO 中部
内容	①防災訓練視察 ②生徒による講演 ③講演会 「東日本大震災から見てきた 本当に大切なこと 2018」



愛知県立千種高等学校 講演会 (6/26)

感想
(抜粋)

- ・防災ではなく、減災をしなければいけないということがとても心に残りました。被災された方のお話を初めて直接聞いて、とても刺激を受けました。
- ・「がれき」を「被災物」としていることなどには、とても考えさせられました。
- ・テレビや新聞では伝わらないような、震災の背景を知ることができ、初めて聞いたことが多くありました。震災について、“知っているつもり” でいることが怖いと思いました。
- ・2011 年の被害を知らない人、忘れている人たちに震災の恐ろしさを伝えることが減災につながると思います。私たち、大きな災害を経験したことがない人たちこそ、震災について考えるべきです。自分にできることを考えていきたいです。
- ・講演中に登場した『都市計画法』と『地理を大切にしたい風土的な街づくり』との対立という言葉や『自然との戦い』から『自然と分け合う生き方』への考え方の変化という言葉などには、現代の問題点を具体的に表していると思いました。
- ・私は、この震災を今生きる人は絶対に忘れてはいけないと思います。だからこそ伝え方 (きちんと中身を把握・理解して伝える) が大事だと思いました。

(4) 事業実施報告

9) その他

実施校	徳島県立富岡東高等学校（徳島県阿南市）
開催日	H30.9.28（金）
講師	山内宏泰氏（リアスアーク美術館副館長 / 学芸係長・学芸員）
協力	EPO 四国
内容	東日本大震災の講演会 「津波常襲地域における災害伝承と文化形成について」



徳島県立富岡東高等学校 講演会（9/28）

感想 （抜粋）

- ・一番重要なのは様々な防災施設ではなく、自分自身の意識なのだとすることを改めて再確認することができました。「自然との戦い」ではなく「自然と分け合う生き方」を考える。今回の講演会で最も印象に残った言葉です。
- ・自然災害なのでいつ起こるかわかりません。でも減災に向けて行動することはできます。今回の講演を聴いてその大切さがよく分かりました。
- ・減災についての情報を生かすことが僕たちの義務だと思いました。
- ・自身や津波の恐ろしさだけではなく、大きな震災の被害を受けたときの本当の意味での地域文化再生についてもまなぶことができた。街が元通りになったとしても、文化が再生しなくては本当に街が復興したとはいえないと思う。
- ・防潮堤が「津波の陸地への侵入を1分1秒でも遅らせ、多くの人が避難できるようにするためのもの」と初めて知りました。災害に関する言葉について正しい意味で正しく使い、記録資料を単に残すだけでなく、正しく伝えていくことが大切という言葉が胸に残りました。

③他団体との事業連携等

ア) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との協定に基づく連携

●地球環境基金主催 EPO 連絡会

開催日	H30.8.8（水）
会場	独立行政法人環境再生保全機構 （神奈川県川崎市）
内容	①全国及び地方ユース環境活動発表大会 ②平成31年度助成金募集に係るスケジュールと説明会について ③意見交換

●平成31年度地球環境基金助成金説明会（東北地区）

開催日	H30.10.27（土）
会場	PARM-CITY131 Room5A （宮城県仙台市）
参加者	11名
主催	独立行政法人環境再生保全機構
EPO 東北	11名
内容	①SDGs活用セミナー ②平成31年度地球環境基金助成金説明会



平成31年度地球環境基金助成金説明会（東北地区）（10/27）



平成31年度地球環境基金助成金説明会（東北地区）（10/27）

イ) GreenGift 地球元気プログラム

●事業概要

東京海上日動火災保険株式会社では、契約時に「ご契約のしおり（約款）」等をホームページでの閲覧をお客様に選択していただくことで紙資源の使用量削減に取り組み、削減額の一部で環境保護活動のサポートを実施している。東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店が、地域の環境に関するNPO等と連携・協働し、環境保護に関する親子対象の体験活動プログラム「GreenGift 地球元気プログラム」を提供する。

本事業は10月から翌年9月までを年度の区切りとし、実施地域は東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店からの応募により、本店によって決定される。

2016年10月からはこれを「Green Gift 地球元気プログラム」と新たに名づけ、2019年9月まで取り組むこととしている。



【青森】みんなのあおぞら水族館プロジェクト（8/26）

EPOの役割

①実施団体候補の選定における情報提供と調整
東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店が連携・協働する実施団体の選定をするにあたり、各地域部店から要望等をヒアリング後、候補となり得る環境NPO等を選出し、情報提供を行った。

②環境NPOと東京海上日動火災保険株式会社各地域部店の調整
各地域部店が実施団体の選定後、環境NPO等に事業の趣旨説明や参画依頼を行った。その後、環境NPOと各地域部店が事業趣旨や実施の流れについて確認する顔合わせの場を調整した。

③企画・広報・実施のサポート

企画に際し、関係者の意見を反映できるよう促した。また、EPO東北のウェブサイトやメールマガジンにて広報の協力を行った。当日は、各地域部店の社員が参加するように促し、運営スタッフとしてサポートを行った。

各団体の役割

主催／各地域の環境NPO
共催／日本NPOセンター
協力／各地方EPO
協賛／東京海上日動火災保険株式会社
後援／環境省

GreenGift 地球元気プログラムウェブサイト

https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/internal_activity/

●2017年度（2017年10月～2018年9月）

実施都道府県①青森県

実施団体：小川原湖自然楽校

貴重な水草や水生生物類の宝庫である小川原湖では、近年水質の悪化が叫ばれ漁業への影響が出始めている。関心を高めてもらうために、水辺の生き物に触れ合い水環境について学ぶプログラムを実施した。

みんなのあおぞら水族館プロジェクト	
第1回	タイトル 田んぼの用水路で水生生物を探してみよう
	開催日 H30.6.24（日）
	場所 土場川流域圃場用水路、あおぞら水族館（青森県上北郡東北町）
	参加者 親子16名
第2回	タイトル みんなのあおぞら水族館で生き物観察をしてみよう
	開催日 H30.7.8（日）
	場所 土場川河口あおぞら水族館（青森県上北郡東北町）
	参加者 親子8名
第3回	タイトル みんなのあおぞら水族館で生き物たちが暮らしやすい環境作りをしてみよう
	開催日 H30.8.26（日）
	場所 土場川河口あおぞら水族館（青森県上北郡東北町）
	参加者 親子10名



【青森】みんなのあおぞら水族館プロジェクト（6/24）

感想
（抜粋）

- ・環境が崩れていると思いました。
- ・生き物が元気に住めるような環境を守りたい。
- ・自分の住んでいる地域でも生き物を探せる場所があると良いなと思いました。
- ・年々生き物が減って絶滅危惧種が増えている中、この辺にはまだたくさんの生き物（絶滅危惧種）がいるのが凄いと感じました。
- ・ガマやマコモを植える前は難しいと思っていたけど、だんだんやっているうちにできるようになったので面白かったです。

(4) 事業実施報告

9) その他

③他団体との事業連携等

イ) GreenGift 地球元気プログラム

実施都道府県②岩手県

実施団体：マイムマイム奥州

地域循環型農業の「循環の輪」を体験しようをテーマに、ひまわりの収穫、ひまわりの種の油絞り体験、循環型農業の中で生まれたご飯と卵の卵かけご飯の試食を行い、触って・見て・味わうプログラムを実施した。

ひまわりから油をとるプロジェクト		
第1回	タイトル	背高のっぽのひまわりを収穫しよう！ ～採りたて野菜の鉄器焼きで ひまわり油のミニ試食会～
	開催日	H30.8.18（土）
	会場	胆沢トレーニング農場 セミナーハウス（岩手県奥州市）
	参加者	親子 31 名
第2回	タイトル	ひまわりの種から 油をしばってみよう！ ～ひまわり油とまっちゃん卵で マヨネーズ作りに挑戦～
	開催日	H30.9.1（土）
	会場	胆沢トレーニング農場 セミナーハウス（岩手県奥州市）
	参加者	親子 12 名



【岩手】ひまわりから油をとるプロジェクト（8/18）

感想
（抜粋）

- ・身近な場所だが知らないことがいっぱいありました。
- ・ひまわりの種ができるまでをもっと知りたくなりました。
- ・たくさんの笑顔が集まっていて心もキレイになりました。
- ・種を取る作業も油を搾るのも初めての体験でワクワクしました。
- ・地域に素晴らしい素材がたくさんあること。そしてそれがうまくつながっていることを知ることができました。

実施都道府県③秋田県

実施団体：一般社団法人あきた地球環境会議

身近な食材である海藻などを使う「おしば体験」と「磯観察」を通じて、秋田の海の自然環境について学び、海の幸を楽しむプログラムを実施した。

第1回	タイトル	男鹿の里海 ～磯観察と海藻おしば体験～
	開催日	H30.7.7（土）
	会場	鵜ノ崎海岸（秋田県男鹿市）
	参加者	親子 20 名
第2回	タイトル	男鹿の里海 ～磯観察と海藻おしば体験～
	開催日	H30.8.18（土）
	会場	鵜ノ崎海岸（秋田県男鹿市）
	参加者	親子 44 名



【秋田】男鹿の里海（8/18）

感想
（抜粋）

- ・生き物全てに役割があるとあらためて感じました。
- ・海にはいろんな生き物がいることをしばらく忘れていたが、思い出することができました。
- ・自分の住む地域の海にアメフラシやウミウシがいることもびっくりしました。
- ・男鹿の海のことや地球規模の海の問題などいろいろなことを教えてもらうことが出来て良かったです。
- ・海に入る体験、押葉 WS、そして地元のお母さんによる昼食会が最高に美味しかったです。



【岩手】 ひまわりから油をとるプロジェクト（9/1）



【岩手】 ひまわりから油をとるプロジェクト（9/1）



【秋田】 男鹿の里海（7/14）



【秋田】 男鹿の里海（7/14）

ウ)「社会人を対象にした地域の課題発見等に関する研修事業」に関するニーズ調査業務

●事業概要

環境省では様々な職種の社会人を対象に、環境保全や地域づくり等に取り組んでいる団体の現場で、地域のSDGsをテーマにしたフィールドワーク型研修を実施した。地域との出会いや議論を通じて、社会変革の担い手を育成することを目的としている。平成30年度は北海道、広島県、愛媛県で研修事業が実施され、東北地方では受入れ団体となるNPOと、人材を研修へ派遣する側である企業に対して、フィールドワーク型研修のニーズを探るヒアリング調査を行った。

発注者	一般社団法人環境パートナーシップ会議
ヒアリング件数	企業 6件 NPO 2件
調査内容	① SDGs への関心について ② NPO での受け入れまたは企業からの派遣ニーズについて

●ヒアリングで確認したニーズ＜NPO＞

- ・他の地域から地元の取組を学びに来てくれるのは大歓迎だ。これを機に外の人に関心を持ち、研修後も何らかの形で関わる人材が出てくれば嬉しい。
- ・視察の受け入れで学んで帰ってもらうのではなく、お互いの課題を出し合い学び合う機会にしたい。

●ヒアリングで確認したニーズ＜企業＞

- ・研修内容や対象者によって参加させる人材は大きく違う。業務の一環で参加してもらうのか、個人参加を募るかよく検討してほしい。
- ・参加者が業務の一環で参加しているかどうかで意識が異なり、ディスカッションでの発言、議論に大きく影響する。
- ・首都圏企業からの参加者と地方の中小企業からの参加者が一緒に学ぶ場合は、新たな視点を学ぶことができ良い刺激になる。研修後も互いの情報交換が続けばとても有意義なものとなる。
- ・SDGsに取り組むメリットを感じないと取組には至らない。
- ・自分の仕事や地域とSDGsを結び付けて考え、そのノウハウを持ち帰る研修を実施してほしい。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku

東北環境パートナーシップオフィス（EPO 東北） 平成 30 年度業務報告書
発行 平成 31 年 3 月 13 日

office 〒 980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 3 丁目 2-23 仙台第 2 合同庁舎 1F
TEL 022-290-7179 FAX 022-290-7181
E-mail epo-tohoku@epo-tohoku.jp
URL <https://www.epo-tohoku.jp/>